

2024年度 年次報告書

ANNUAL REPORT
2024/4/1~2025/3/31



認定 NPO 法人 アジア・コミュニティ・センター 21

ごあいさつ



2024 年、ACC21 は 20 年目という節目を迎えました。これまでの活動を通じて出会った方々に助けられ、試行錯誤の中で得てきた学びを活かしながら、日本とアジア各国をつなぐ多様な事業を展開することができました。支援して下さった全ての皆様に心から感謝申し上げます。

ACC21 は「人々が温かいつながりのなかで共に生きる、多様な "コミュニティ" に彩られた世界の実現をめざします」を目指し、「あらゆる世代や様々なコミュニティと協働し、若者たちがこれからの社会をつくるための環境を作る」ことにチャレンジしています。そこでは、「多様なコミュニティ」と「若者たち」がキーワードです。日本のみならずアジア各地で、急激な社会変化によって、地域コミュニティは衰退の危機にありますが、社会福祉でも災害対応でも、最後に頼れるのは地域の共助です。一方、IT 技術の進歩により、遠く離れていても、志を同じくする人たち同士がコミュニティを形成できるようになっています。平和が脅かされ、社会の分断が進むなかで、「温かいつながりのなかで共に生きる」場をどう作っていいのか。次の時代を作るアジア各地での若者たちへの支援をさらに強めていきたい、と考えています。

代表理事 長畑 誠

目次

- p.1 — 2024 年度の ACC21
- p.2 — フィリピン・ストリートチルドレン支援事業
- p.4 — 日韓みらい若者支援事業
- p.6 — 知識・情報の普及
- p.7 — 公益信託の事務局活動
- p.8 — 日比 NGO 協働推進／政策・制度変革のための提言
- p.9 — 活動・イベント一覧
- p.10 — たくさんの方に支えていただきました
- p.11 — 決算報告
- p.12 — 編集後記
- p.13 — 団体概要



自立を目指し、ホテルなどの客室の清掃・整備・管理業務に関わる職業技術を学ぶ「Project Bamboo」研修生（フィリピン・2025 年 8 月、詳細は p.2 参照）

2024年度のACC21

日韓：

- ➔ のべ **292** 人（過去最多）が日韓みらい若者支援事業に参加し、日韓関係の歴史や共通の社会課題について理解を深めた。
- ➔ 韓国スタディツアーを通じて、日韓両国の参加者 **32** 人が対話・交流した。



レンガ工場労働者の子どもたちのための移動教室のようす（ACT 助成事業、カンボジア、2024 年 11 月）



韓国スタディツアー（2024 年 11 月）

日本：

- ➔ ACC21 が主催した活動・イベントにのべ **430** 人以上が参加。うち、のべ 17 人が、フィリピンのストリートチルドレンをテーマにした国内の啓発イベント「Take Action! 連続講座」に参加。



子どもの権利についての全編英語イベントを開催（2024 年 11 月）

アジア地域：

- ➔ 3 つの公益信託の事務局として、アジア **9** か国（日本含む）で実施された **34** 事業（総額 **4,185.5** 万円）の助成活動を支え、約 **31,800** 人に支援を届けた。

フィリピン：

- ➔ 路上出身の若者 **27** 人が自立のための研修を修了。**32** 人の若者がグループ活動に参加。
- ➔ ストリートチルドレン ZERO キャンペーンに、のべ **66** 人・団体から **70** 万 **6,540** 円のご支援。応援ラン＆ウォークに 11 人が参加し、計 **758.68** km を達成。
- ➔ ZERO キャンペーンを通じて、路上の子ども **15** 人を奨学支援。



研修の修了証を手にした笑顔の路上の若者たち（2025 年 3 月）

フィリピン・ストリートチルドレン支援事業

フィリピンには、路上で暮らす子どもストリートチルドレンが約 37 万人いるとされています。親の多くは貧困を背景に農村から都会に出てきたものの、衣食住や教育・医療費を賄うだけの収入を得られるような職業に就くことができません。ACC21 は、路上で暮らす子どもや若者の人権が守られ、安心できる環境で暮らし、路上を抜け出すことができるよう、3 つの活動に取り組んでいます。



若者起業グループ (YEG) の会合のようす

◎ Project Bamboo : 路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト

路上で暮らす若者 36 人に就職または起業のための技術や知識を学ぶ機会を提供し、うち 27 人の若者が研修を修了しました。



「Project Bamboo」の起業コースの研修を受ける若者 (左) と講師 (右)

2024 年度から、研修プログラムの一部を「就職コース」と「起業コース」に分け、研修生の適性や将来への希望に合わせ、より専門性の高い研修を提供しました。事業開始から現在までに支援した若者の数は 170 人を超えました。



Project Bamboo のロゴマーク

また、これまでの修了生で構成された学び合いのグループ「若者起業グループ (YEG)」に、32 人が参加し (2024 年度末現在)、若者たち自身で自発的にグループを運営するために必要な組織化のプロセスについて学ぶとともに、グループ名称やビジョン・ミッションについて検討しました。

(現地 NGO チャイルドホープ・フィリピン財団との協働)



受益者の声

シャウウィンさん (19 歳) は、両親が薬物依存で頼ることができないため、2 人の弟の面倒を見ながら、路上で生活を続けてきました。高校まで進学したものの、生活費を工面しながら学校に通うことは難しく、学業の継続を断念しました。

その後、家族のために収入を増やそうと、2024 年前期の「Project Bamboo」研修 (起業コース: 小規模ビジネスの運営で生計を立てるための知識や技術を学ぶコース) に参加し、修了しました。

『僕一人で家族を背負わなければいけないという責任はとても重いです。将来は、弟と共に路上生活を脱け出したいと心から願っています。研修で学んだことを活かして収入を得て、いつかは学業も再開したいです』

◎ TakeAction! 日本とフィリピン子ども・若者の啓発と次世代育成プロジェクト

日本国内の特に若い世代の国際協力分野への問題意識を呼び起こし、その自発的なアクションを促進することで、ZERO キャンペーンや SDGs の将来の推進役を育てることをめざし、2024 年 2 月から全 4 回の連続講座「Take Action! 連続講座：フィリピンのストリートチルドレンのために私たちができること」を開催しました。2024 年度は、後半の 2 講座を実施し、参加者によるフィリピンの若者とのオンライン交流やアクションの企画を推進しました。

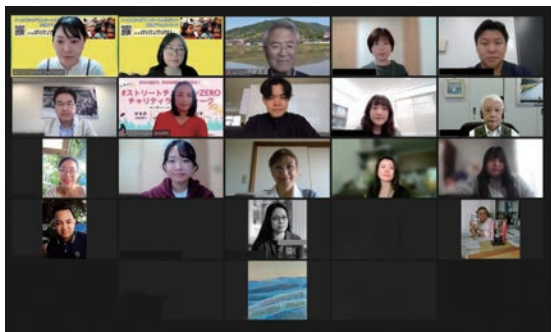
◎ストリートチルドレン ZERO キャンペーン

2024 年 4 月 12 日の「ストリートチルドレンのための国際デー」に合わせ、募金キャンペーンとフォーラム・イベント（詳細は p.9 参照）を開催しました。

募金キャンペーンでは、のべ 66 人・団体から 706,540 円のご寄付が寄せられ、募金期間の前後に寄せられた寄付金を含む 741,092 円を次のように配分しました。

- ① 本キャンペーン推進のための事業管理費：148,218 円
- ② ACC21 「Project Bamboo：路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」：222,328 円
- ③ キャンペーン助成事業審査委員会で決定された助成事業（右記参照）：370,546 円

（（一社）アジア宗教者平和会議東京との共催）



ストリートチルドレンのための国際デー記念フォーラム
(2024 年 4 月)



TakeAction! 連続講座第 3 回 (2024 年 4 月)

キャンペーン助成事業： 路上の状況にある子どもの奨学支援

2024 年度のストリートチルドレン ZERO キャンペーン 寄付配分事業の一つとして、現地 NGO クヤ・センター（Kuya Center For Street Children, Inc.）が実施する奨学支援事業を支援しました。

支援の対象となる子どもたちは、親が病気であったり、雨が降るたびに自宅が浸水してしまうなど、厳しい生活の中で勉強を続けることが難しい 15 人（女子 5 人、男子 10 人／9～16 歳）です。彼らが学校に通い続けられるよう、制服や靴に加え、交通費や課題費、軽食代などの必要経費を提供しました。

2024 年 10 月には ACC21 事務局長・鈴木が現地で奨学生と保護者との面談、家庭訪問を行いました。



担当者からの MESSAGE

「Project Bamboo」では、修了生の累計が 170 人を超えました。2024 年度の後半からは、過去の修了生を対象とした調査活動に取り組んでいます。結果がまとまりましたら、ウェブサイトなどで報告しますので、お楽しみに！（辻本）

日韓みらい若者支援事業

繰り返し起きる日本と韓国の対立を乗り越えるため、朝鮮半島と日本にルーツをもつ若者たちが日韓関係の歴史を学び、共通の歴史観をもち、未来に向けた創造的な新しい日韓関係を築いていけるように、様々な活動に取り組んでいます。

事業開始から6年目となる2024年度は、のべ292人（うち約半数が若者）が参加し、これまでの活動参加者が、新しい学習会・語り場の講師や企画者になるなど、学生や若者が中心の企画を通じて、世代や背景の異なる参加者同士の活発な対話と学びが生まれました。また、若者の“生きづらさ”など日韓共通の社会問題や共通の歴史教材作成の舞台裏など、当事業での新しい企画に参加する若者が増えました。

◎学習会

強制動員被害者の人権と尊厳をテーマにした学習会のほか、民間レベルの政策対話、韓国での留学生生活、生きづらさなど、計4回を開催しました。

◎語り場活動

4テーマ・3グループ（計10回）が活動し、うち2グループ（私と日韓／在外被爆者、教科書とメディアから見る日韓の違い）では、スタディツアー参加者、学生団体が中心となり、多様な背景・世代の参加者が活発に議論しました。

◎スタディツアー（24年11月）

韓国訪問スタディツアーに日韓合わせて32人が



同年代ということもあり、打ち解けた様子で話すツアー参加者とハンシン大生たち

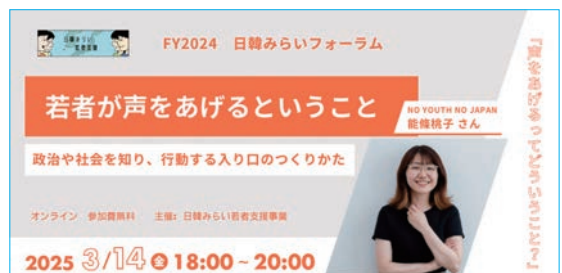


日韓スタディツアーでDMZ（非武装地帯）を訪問（2024年11月）

参加し（日本から20代4人、韓国から28人（一部参加者含む）、植民地歴史博物館、非武装地帯（DMZ）訪問、韓国多様性研究所でのワークショップ、市民活動現場の見学と交流、ハンシン大学生との交流などを行いました。

◎フォーラム「若者が声をあげるといふことー政治や社会を知り、行動する入り口のつくりかたー」（2025年3月）

本事業で得られた学びの共有のほか、若者が行動に移すことの意味や重要性について実践者から話を聴くことでアクションを起こす若者を増やす機会を創出することを目的に開催しました。若者の政治・社会参加を推進する能條桃子氏による基調講演「わたしたちが生きたい社会はわたしたちがつくる〜若者・女



性の政治参加促進の活動から」では、行動を起こすきっかけ、先駆者から学ぶ、周りの人を巻き込む方法などについて実体験に基づいた話をしていただきました。参加者からは「同年代の方の話を聞き、自分に置き換えて考えることができた」など前向きな感想がありました。

((特活) AsiaCommons 亜洲市民之道との共催)



担当者からの
MESSAGE

6月より新たに事務局を担当することになりました。ここまでの学びの輪をさらに広げ、日韓の若者の対話・交流を深めていけるよう、頑張っていきたいと思います。

(村上、2025年6月～)



担当者からの
MESSAGE

本事業に3年間携わり、参加者の増加や活動の広がりを実感してきました。強制動員や在外被爆者の歴史などの様々なテーマで若者たちが意欲的に学びを深めていく様子を見守ることができ、意義深い経験でした。今後も日韓の人々が、より良い未来のために協働していけることを期待しています。

(シャープ、～2025年5月)

“語り場”活動企画者、参加者からの声

“語り場”活動「知られざる声 ～在外被爆者の記憶と平和への歩み～」

企画者代表：村山美耶子さん（東京大学大学院、2023年度スタディツアー参加者）

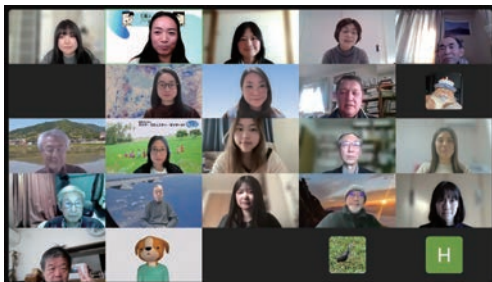
2025年は原爆投下から80年。日本人以外
の被爆者について学ぶことが重要だと思い、第1回スタディツアーで出会ったメンバーと企画しました。第1回は被爆者についての基礎知識の共有、第2回は在韓被爆者支援の活動（平野伸人氏の講義）と長崎の高校生平和大使2名からのお話、第3回は家族として被爆体験を伝承する宮崎（李）千代氏による在日韓国人被爆者李鍾根氏の体験を聞きました。私たちは、被爆者が国籍差別と向き合いながら生きた現実を学び、語ることの大切さや、対話を通じて学びを深める意義を実感しました。今後も対話を重ねながら学びを深める場をつくっていきたいです。

日中韓3国共通歴史教材委員会の日本側委員会をとりまとめる大日方純夫氏（早稲田大学名誉教授）による第1回「日中韓3国共通の歴史教材がつくられた経緯と作成者間の論点」の参加者

“語り場”活動「日中韓3国歴史教材作成者の現場から学ぶ一舞台裏、実践、展望一」

参加者：田代怜さん（クラーク記念国際高等学校）

小学校から韓国アイドルが好きだったこと、韓国の対日感情に興味を持ち学校で探究活動を始めたこと、日中韓三国の歴史認識の違いや、他の参加者の意見や質問から自分にはない視点を学べることを期待し、参加しました。三国では歴史認識で異なる部分がある中、何が論点でどのように意見をあわせてきたかなど、作成者しか知らない裏側を学ぶことができました。このような教材を使って学ぶことの必要性や学生が歴史を学ぶこと、国を越えて交流する重要性を感じました。



知識・情報の普及



海外インターン学生と学生スタッフが中心となり企画・開催したイベント「英語で学ぶ子どもの権利：Together we are Making A Difference」(2024 年 12 月)

2024 年度は、ACC21 の活動を紹介・報告する定期的なオンライン・イベント「月カフェ」を開始したほか、事業活動を通じてフォーラムや学習会・講座などのイベントを積極的に開催しました（詳細は p.9 参照）。

さらに、外部セミナーへの講師派遣(3 回)や、個人・団体の訪問受入れ(4 組)をし、約 180 人を対象にアジアの現状や ACC21 の活動について説明しました。

また、ウェブサイトや SNS、メールマガジンでの定期的な情報発信や年次報告書の発行を通じて、支援者や一般の方々への情報提供と活動への参加呼びかけを行いました。

2023 年度に引き続き、「Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs」の海外助成プログラム(2 年間：2023 年 1 月～2024 年 12 月)からの助成を受けて、事業承継を見据えた組織基盤づくりに取り組みました。

EVENT REPORT

ACC21 月カフェ



ACC21 の活動を定期的に紹介・報告し、国際協力や社会貢献に関心のある方々と交流する場として、2024 年 5 月からオンライン・イベント「ACC21 月カフェ」を開始。高校生からベテラン世代の方までご参加いただき、参加者の社会貢献活動についての発表や、参加者同士の交流も活発に行われました。

2025 年度の
開催情報はこちら：



英語で学ぶ子どもの権利 — Together we are Making A Difference —



2024 年 12 月、フィリピンの子どもの権利をテーマにした全編英語の対面イベントを開催しました。企画・登壇したのは、海外インターン学生のフランシスカさんと学生スタッフの石山さん。2 人からの発表のほか、元ストリートチルドレン・ジュードさんからの報告やグループディスカッションなどを行いました。

詳細レポートはこちら：



未来につなぐバトン： アジアの若者たちの挑戦を、一歩前に



2025 年 1 月、社会貢献や国際協力に関わる若者世代のリアルな声を届け、アジアの若者が挑戦する意義を深掘りするオンライン・イベントを開催。アフリカやアジアでアクティブに活動する高田結愛さんをスピーカーにお招きしたほか、ACC21 職員と日韓みらいスタディツアー参加者とのパネルディスカッションを実施しました。

詳細レポートはこちら：



公益信託の事務局活動

ACC21 は、「アジア・コミュニティ・トラスト (ACT)」
「今井記念海外協力基金」「川上甚蔵記念国際文化
教育振興基金」という3つの公益信託の事務局を
受託しています。公益信託とは、社会貢献を志す個人
や法人からのご寄付を信託銀行等が管理・運用し、
寄付者の立場に立って公益活動を行う仕組みです。
ACC21 はアジアの途上国での長年の経験や知見を
活かして、アジア各国で実施される助成事業の報告

書の取り付け、助成団体との連絡・調整、新規事業
の募集・調査、受託銀行との連絡・調整などを行い、
質の高い助成活動を支えています。

2024 年度は、3 つの公益信託を合わせて、フィリ
ピン、インドネシア、インド、スリランカ、カンボジア、
バングラデシュ、ミャンマー、ネパール、日本の9カ
国で34事業(決定総額 4,185.5 万円)が実施され、
約 31,800 人に支援を届けました。



フィリピン・パラワン州の先住民族タグバンワに伝わる物語を
まとめた冊子(川上基金助成「先住民族の無形文化遺産の伝
承」)



身の回りの問題について分析するカンボジアの大学生 (ACT
助成「地方出身の大学生の起業家育成と自助グループ推進」)

ACC21 が事務局をつとめる公益信託	2024 年度助成件数／決定総額／実施国
アジア・コミュニティ・トラスト	26 件／ 3,530.1 万円／フィリピン、インドネシア、 カンボジア、インド、日本
今井記念海外協力基金	7 件／ 578.4 万円／フィリピン、バングラデシュ、 ミャンマー、ネパール、スリランカ
川上甚蔵記念国際文化教育振興基金	1 件／ 77 万円／フィリピン

各基金の詳細は、
ぜひ専用ウェブサイトをご覧ください。



アジア・コミュニティ・トラスト



今井記念海外協力基金



担当者からの MESSAGE

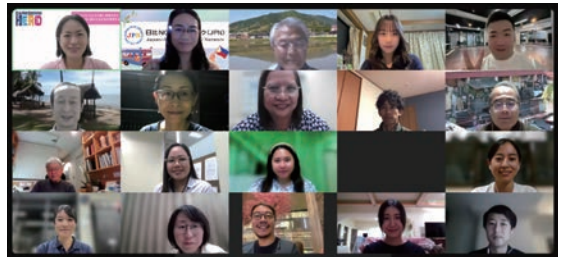
川上基金は開発途上国の文化、
教育の振興を目的とした、46 年
続く公益信託です。アジアの多様な有形無形の文化
や価値が次の世代に継がれ、新たなニーズやアイデ
アを生み出す原動力になってほしい、という思いを強
くしています。

(鈴木、ACT・川上基金を担当)

日比NGO協働推進

ACC21 は、「日比 NGO ネットワーク (JPN)」の事務局・正会員として、2006 年の発足以来、その活動を支えてきました。2025 年 3 月末時点で、正会員 7 団体、準会員 8 名・団体、賛助会員 7 名・団体が参加しています。

2024 年度は、約 3 年ぶりとなる「正・準会員の集い」と 3 回の学習会を開催し、のべ 55 名の会員・市民が参加しました。



JPN 学習会「フィリピン国・社会福祉開発省 (DSWD) の貧困対策と日本の NGO への期待」(2025 年 1 月)

ACC21 は、「日比 NGO ネットワーク (JPN)」の事務局業務を新たな事務局に引き継ぐこととなりました。2025 年度以降は正会員として引き続き

JPN に参加します。

これまでの 19 年間、いろいろな活動に関わらせていただき、本当にありがとうございました。

インドネシア^{かすり}絣織物(イカット)従事者育成事業

インドネシアの伝統織物「イカット」は、地域の文化やアイデンティティを象徴する重要な工芸です。地域ごとに宗教、文化、歴史の影響を色濃く受けた色や柄があり、冠婚葬祭に欠かせないものとして、地域の人々の手によって大切に受け継がれてきました。しかし、都市への人材流出や市場の未整備により、担い手不足が深刻です。そこで、2024 年度から、地域文化の継承と産業の活性化をめざし、次世代の担い手を育成するために、本事業を開始しました。2024 年度は現地団体の情報収集や調査準備を進めました。

(山崎様からの事業指定寄付を受け実施)



3,500 年以上前から存在していたといわれる東ヌサ・トゥンガラ州のイカット織りのようす

政策・制度変革のための提言

右記のネットワーク・団体のメンバーとして、それぞれの政策提言活動に参加しました。また、「フィリピンのストリートチルドレン ZERO キャンペーン」事業を通じて、ストリートチルドレンの状況を改善するための提言活動に取り組みました。

- ・(特活) 国際協力 NGO センター(JANIC) 正会員
- ・日比 NGO ネットワーク (JPN) 正会員
- ・グローバル連帯税フォーラム 正会員
- ・NGO- 労働組合国際協働フォーラム 会員
- ・認定 NPO 法人振興会 会員

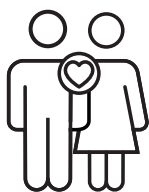
主催活動・イベント一覧

日時、会場	タイトル	登壇者名／所属・役職（※）	参加人数
全般			
イベント	2024/5～2024/11 (計 7 回) オンライン	ACC21 月カフェ: ACC21 の取り組みを入り口に国際協力・社会貢献について考えるオンライン交流会	ACC21 役職員 のべ 51 人
	2024/12/12 文京学院大学（東京）	英語で学ぶ子どもの権利 : Together we are Making A Difference	フランシスカ・カルヴァリョ／ ACC21 国際インターン ジュード・ナティヴィダッド／元ストリートチルドレン 石山芽依／ ACC21 学生スタッフ 17 人
	2025/1/24 オンライン	未来につなぐボタン : アジアの若者たちの挑戦を、一歩前に	高田結愛／高校生アクティビスト 10 人
フィリピン・ストリートチルドレン支援			
連続講座	2024/4/4、5/9 オンライン	TakeAction! 連続講座 : フィリピンのストリートチルドレンのために私たちができること（第 3 回、第 4 回）	マニラの路上で暮らす若者 2 名 現地 NGO 職員 4 名 伊藤道雄／ ACC21 のべ 17 人
フォーラム	2024/4/13 オンライン	ストリートチルドレンのための国際デー記念イベント 2024「立ち上がるフィリピンの元ストリートチルドレンたち」	元ストリートチルドレンの若者 2 名 30 人
イベント	2024/5/21 オンライン	フィリピンのストリートチルドレンを ZERO に : 2023 年度活動報告ー SDGs「誰一人取り残さない」実現に向けてー	福田浩之／認定 NPO 法人アイキャン 事務局長 辻本紀子／ ACC21 20 人
日韓みらい若者支援			
学習会	2024/6/27 オンライン	強制動員被害者の人権と尊厳を共に考えるー朝鮮半島の歴史と東アジアの平和の観点から	金英丸／民族問題研究所・植民地歴史博物館 対外協力室長 22 人
	2024/8/3 オンライン	民間レベルの政策対話・提言が拓く日韓の未来ー「日韓フォーラム」の 30 年ー	船木大／（公財）日本国際交流センター シニア プログラムオフィサー 8 人
	2024/8/15 オンライン	韓国での留学生生活ってどうですか?ー留学中の学生に聞くオンライン座談会 2024ー	坪井佑介／韓国・江原大学大学院文化人類学科 修士課程 田中のぞみ／韓国・梨花女子大学大学院政治外交学科博士課程 12 人
	2025/3/8 オンライン	韓国の若者は何に怒っているのか?ー生きづらさの正体ー	春木育美／聖学院大学政治経済学部 教授 17 人
語り場	① 2024/8/31 ② 12/17、 2025/1/18、2/8 オンライン	【グループ 1 : 2024 年 2 月のスタディツアー参加者】 ①私と日韓 ②知られざる声ー在外被爆者の記憶と平和への歩みー	②平野伸人／平和活動支援センター 所長、 在外被爆者支援連絡会 共同代表 宮崎（李）千代／在日韓国人被爆者・李鍾根（イ・ジョングン）さんの語り部 24 人
	2024/9/28、 10/12、10/26	【グループ 2 : くらべてみよう!教科書とメディアから見る日韓の違い】 ①日韓関係レクチャー ②日韓の教科書や教育現場における日韓問題とは? ③日韓両国における日韓問題の報道のされ方の違い ※第 39 回・第 40 回日韓学生会議による呼びかけ	②上山由里香／早稲田大学 次席研究員 ③徐台教／ジャーナリスト 23 人
	2025/2/15、 3/5、3/19	【グループ 3 : 日中韓 3 国歴史教材作成者の現場から学ぶー舞台裏、実践、展望ー】 ①日中韓 3 国共通の歴史教材がつくられた経緯、今後の展望 ②教員の立場からみた 3 国共同編纂の歴史教材の意義、活用における展望 ③日韓の歴史教科書の比較	①大日方純夫／早稲田大学 名誉教授 ②小川輝光／神奈川学園中学・高等学校教諭、 早稲田大学・神奈川大学 非常勤講師 ③上山由里香／早稲田大学 次席研究員 30 人
フォーラム	2024/4/20 オンライン	2023 年度フォーラム : 歴史と実践者から学び、考える東アジアの平和	徐台教／ジャーナリスト 発表者 : 2023 年度スタディツアー・学習会・語り場活動参加者 73 人
	2025/3/14 オンライン	2024 年度フォーラム : 若者が声をあげるといことー政治や社会を知り、行動する入り口のつくりかたー	能條桃子／（一社）NO YOUTH NO JAPAN 代表理事、FIFTYS PROJECT 代表 徐台教／ジャーナリスト 発表者 : 2024 年度語り場活動・学習会の参加者、 2023・24 年度スタディツアー参加者 38 人
報告会	2024/9/7 オンライン	「対話」重視の「日韓みらいスタディツアー」ー第 1 回目を振り返り、第 2 回目に向けてー	2023 年度スタディツアー参加者 13 人
スタディツアー	2024/11/1～11/5 韓国	韓国市民との対話と実地体験で学ぶー日本の植民地時代、朝鮮戦争、これからの平和（訪問先など : 植民地歴史博物館、DMZ ツアー、韓国多様性研究所（ワークショップ・講演）、市民活動現場の見学、市民活動家のトーク・交流、ハンシン大学生との交流、総括）	32 人 (日本から 4 人、韓国 から 28 人)

※敬称略、役職は開催当時

たくさんの方に支えていただきました

正会員



▼
11名

賛助会員



▼
17名(28口)
1団体(1口)

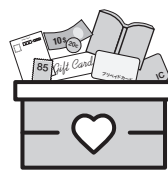
寄付者



▼
143名・団体
(31,677,100円)^(注)

すっきり寄付

(古本募金含む)



▼
のべ122名・団体
(808,702円)^(注)

(注) 詳しくは p.11 右下の注記をご覧ください。

助成金・基金

(特活) アーユス仏教国際協力ネットワーク
『『街の灯』支援事業』

(一財) MRA ハウス

生活協同組合コープみらい
「子ども・子育て支援基金」

(公財) 電通育英会

日本労働組合総連合会
総合国際局「連合・愛のカンパ」

Panasonic NPO/NGO サポートファンド
for SDGs 海外助成プログラム

- 「インドネシア絨織物（イカット）従事者育成事業」への指定寄付として、山崎様から 2,000 万円のご寄付をいただきました。
- クラウドファンディング「ストリートチルドレン ZERO キャンペーン | 路上で暮らす子どもがいない未来へ」(2024/4/12 ~ 5/31) に、のべ 66 人・団体から 706,540 円のご寄付をいただきました。
- クラウドファンディング「若者チャレンジ 100 募金」(2024/12/10 ~ 2025/1/31) に、のべ 78 人・団体から 1,558,465 円のご寄付をいただきました。

支援の輪が広がる『すっきり寄付』

ACC21 は 2018 年度から、皆さまのご家庭で眠る未使用・使用済の切手やハガキ、プリペイドカードなどを集め換金する『すっきり寄付』の取り組みを始めました。2024 年度はのべ 122 人・団体からご協力をいただき、過去最高額となる 80 万 8,702 円もの収入額となりました。ご寄贈品に同封されていたメッセージの一部をご紹介します。

『母からもらった未使用切手 少しですが送ります。有意義なことに使っただけでしたら亡くなった母も喜ぶと思います』

『少しでもお役に立てばうれしいです』

皆さまの温かいお気持ちに一同感謝を申し上げます。引き続き、様々な物品を集めております。ぜひご協力をよろしくお願いいたします。



すっきり寄付に寄せられた使用済切手の一部

決算報告 2024 年度（2024 年 4 月 1 日～ 2025 年 3 月 31 日）

①活動計算書

（単位：円）

科目	金額	小計・合計
I. 一般正味財産増減の部		
【A】経常収益		
1. 受取会費		322,000
正会員受取会費	132,000	
賛助会員受取会費	190,000	
2. 受取寄付金		12,727,789
受取寄付金 ^(注)	12,485,802	
受取寄付金振替額 「インドネシア紡織物 （イカット）従事者育成事業」	241,987	
3. 受取助成金等		6,404,208
受取助成金	6,404,208	
4. 事業収益		10,553,372
受託事業収益	10,495,872	
自主事業収益	57,500	
5. 負担金収益		1,000,000
共同事業負担金収益	1,000,000	
6. その他の収益		22,656
経常収益計		31,030,025
【B】経常費用		
1. 事業費		28,511,604
人件費	14,205,547	
その他経費	14,306,057	
2. 管理費		2,516,895
人件費	695,570	
その他経費	1,821,325	
経常費用計		31,028,499
当期経常増減額【A】－【B】…①		1,526
【C】経常外収益		0
【D】経常外費用		0
当期経常外増減額【C】－【D】…②		0
税引前当期一般正味財産増減額 ①＋②…③		1,526
法人税、住民税、事業税…④		70,000
前期繰越正味財産額…⑤		5,001,174
次期繰越一般正味財産額 ③－④＋⑤		4,932,700
II. 指定正味財産増減の部		
受取寄付金…⑥		20,000,000
「アジア若者みらい基金」 （「インドネシア紡織物（イカット） 従事者育成事業」指定寄付）	20,000,000	
一般正味財産への振替額…⑦		△ 241,987
当期指定正味財産増減額⑥＋⑦		19,758,013
前期繰越指定正味財産額		0
次期繰越指定正味財産額		19,758,013
次期繰越正味財産額		24,690,713

②貸借対照表

（単位：円）

科目	金額	小計・合計
資産の部		
1. 流動資産		27,827,245
現金預金	26,496,721	
未収金	361,750	
棚卸資産	935,774	
前払費用	33,000	
2. 固定資産		0
有形固定資産		0
無形固定資産		0
投資その他の資産		0
資産合計		27,827,245
負債の部		
1. 流動負債		3,136,532
未払金	897,349	
前受金	1,302,701	
預り金	363,282	
未払法人税等	70,000	
未払消費税	503,200	
2. 固定負債		0
負債合計		3,136,532
正味財産の部		
1. 指定正味財産		19,758,013
アジア若者みらい基金（「イ ンドネシア紡織物（イカット） 従事者育成事業」指定寄付）	20,000,000	
当期指定正味財産増減額	△ 241,987	
2. 一般正味財産		4,932,700
前期繰越一般正味財産額	5,001,174	
当期一般正味財産増減額	△ 68,474	
正味財産合計		24,690,713
負債及び正味財産合計		27,827,245

（注）本ページの「受取寄付金」記載額（12,485,802 円）には、すつきり寄付として受領した寄付金額（808,702 円）が含まれます。p.10 の「寄付者」欄に記載した金額（31,677,100 円）は、「受取寄付金」のうち金銭で受けた金額（11,677,100 円）に、指定正味財産に計上したご寄付額（20,000,000 円）を加えた金額となります。

より詳しい決算報告書はウェブサイトから
PDF 版をダウンロードいただけます。





今年の3月1日に20周年を迎えることができました。ご協力いただいたすべての皆様に感謝申し上げます。

コロナ禍を経た世界は、癒しと再生への道を歩むかという期待も空しく、最近ではアジアでも国家間の紛争が起き、日本では排外主義的な発言が飛び交うようになっています。今年の秋にACC21が開催する「アジアみらい若者会議」では、今の世界はどう映っているか、どのような世界をめざすのか、若者リーダーたちが議論を尽くす場にしたいと思っています。

(鈴木真里／副代表理事・事務局長)



2024年5月からオンライン・イベント「月カフェ」が始まりました。ACC21の活動を入りに、社会貢献や国際協力について気軽に話しする会です。学生、社会人、ベテラン世代など、多様なバックグラウンドの方とお話しする貴重な機会に、刺激をいただいています！

(辻本紀子／
事務局次長、フィリピン事業・広報担当)



2025年は日韓国交正常化60周年。共生への逆風も強まる中、想像以上に多くの方々が、日韓みらい若者支援事業の活動に参加してくれていることに驚いています。日韓の歴史を互いに学び合うことは、共生を考える土台になります。引き続き交流の輪を広げていきます！

(村上究人／
日韓みらい若者新事業・ACT担当)



先日、女子高校生が事務所を訪れ、フィリピンに出張する辻本さんに、ストリートチルドレンへの文房具を託しました。一気に若い息吹に溢れ、新鮮で目を見張る瞬間でした。新入職員村上さん、大学生鳥生さん、若い世代に共生の思いが生きている！行動している！嬉しい！

(藤岡順子／経理担当)



インターンとして活動に携わる中で、ストリートチルドレンの問題は決して遠い国の出来事ではなく、私たち一人ひとりの生き方とも深く関わっていることを実感しています。声なき声に耳を傾け、そこに光を当てる取り組みに関われたことに感謝し、今後も学びを行動へとつなげていきたいと思っています。

(鳥生健太／インターン)

2025 年度の最新情報

- フィリピンでは、新たに20人の若者たちが「Project Bamboo」の研修生となり、自立を目指して学んでいます。日本では、6月までにストリートチルドレンについて学ぶ「Take Action 連続講座」を開講。年末には「ストリートチルドレン ZERO キャンペーン」のフォーラムを開催する予定です。
- 日韓みらい若者支援事業では、6月に語り場活動を開始。今後さらに学習会や語り場活動を実施していきます。最新の情報はACC21ウェブサイトをご覧ください。
- インドネシアでは、6月に長畑代表理事と鈴木事務局長が現地を訪れイカットの従事者育成のための基礎調査を実施しました。
- ACC21の活動を紹介・報告するオンライン・イベント「月カフェ」を、2025年度は奇数月に開催しています。皆さまのご参加をお待ちしています！

最新のイベント情報は

こちら >>>>>



特定非営利活動法人 **アジア・コミュニティ・センター 21**
(認定 NPO 法人)

団体概要

●所在地

〒113-8642 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館 1F

●設立

2005 年 3 月 (2009 年 10 月法人格取得、2016 年 3 月認定 NPO 法人となる)

●役員構成

代表理事 **長畑 誠** (明治大学専門職大学院ガバナンス研究科長・教授、
一般社団法人あいあいネット代表理事)

副代表理事 **鈴木 真里** (ACC21 事務局長)

理事

有川 凜 ((一財) RINDA foundation JAPAN 代表理事)

浜田 忠久 ((特活) 市民コンピュータコミュニケーション研究会 代表理事)

辻本 紀子 (ACC21 事務局次長)

監事

秋尾 晃正 (The Education for Development Foundation (タイ) 理事長)

鈴木 英子 (鈴木英子税理士事務所 所長)

アドバイザー

伊藤 道雄 (ACC21 チーフアドバイザー・前代表理事、(特活) 国際協力 NGO センター顧問)

太田 達男 ((公財) 公益法人協会会長)

ウェブサイト: <https://acc21.org>

電話: 03-3945-2615



\\ SNS / で情報発信中!

◎ビジョン

人々が温かいつながりのなかで共に生きる、多様な“コミュニティ”に彩られた世界の実現をめざします。

◎ミッション

ACC21 は、プロフェッショナルな“コーディネーター集団”として、
様々なリソース(資金、ひと、知識・情報など)を橋渡しすることで、
社会課題に主体的に取り組み、問題を解決できるよう貢献します。

- ACC21 は 2025 年 3 月に 20 周年を迎えました。20 周年記念ウェブサイト公開中!



- ACC21 のロゴマークが新しくなりました。2023 年に策定された新しいビジョンに発想を得ています。



ACC21 の新しいロゴマーク

||||||| ご寄付のお願い |||||||||

ACC21 の活動は、皆さまからのご寄付や会費によって支えられています。

ACC21 へのご寄付・賛助会費は、税制上の優遇措置の対象となります。

【ご寄付・会費のお振込み先】

《ゆうちょ銀行》

《みずほ銀行 駒込支店（559）》

口座番号：**00160-6-718320**

普通口座：**1120451**

特非）アジア・コミュニティ・センター21 特非）アジア・コミュニティ・センター21

※銀行振込の場合は、ご寄付者さまのお名前とご住所をメール（kifu@acc21.org）またはお電話（03-3945-2615）でお知らせください。



詳しくはこちら。クレジットカード決済もご利用いただけます。

<https://www.acc21.org/donation/kifu/>



※遺贈・相続財産へのご寄付についてのご案内資料もご用意しておりますので、お気軽にお問い合わせください。

||||||| すっきり寄付 |||||||||

おうちに眠るものをお金に換えて、フィリピンのストリートチルドレン支援や日韓みらい若者支援をはじめとした ACC21 の活動全般に活用させていただきます。

●集めているもの

- | | |
|------------------|------------------------|
| 1. はがき（書き損じ・未使用） | 4. 外国通貨（硬貨、紙幣） |
| 2. 未使用切手（日本、外国） | 5. プリペイドカード（使用済・未使用） |
| 3. 使用済み切手（日本、外国） | 6. トレーディングカード（使用済・未使用） |
| | 7. 商品券、株主優待券（未使用） |



●送り先

ACC21 事務所
すっきり寄付係まで！



ご送付前に、申込用紙または
下記 URL に記載の注意事項をお読みください。

<https://www.acc21.org/donation/sukkifu/>



※一部の物品は、額面分の寄付として受け付けています。詳しくは URL をご覧ください。

認定NPO法人

アジア・コミュニティ・センター21（ACC21）

Tel:03-3945-2615 Fax: 03-3945-2692

発行日：2025年8月31日 編集・発行：ACC21

●編集デザイン 有限会社フrintヒル

🌐 URL: <https://acc21.org>

📘 <https://www.facebook.com/acc21.org>

✕ X (旧 Twitter) : @ACC21_NGO

📷 Instagram: @acc21_ngo